

## 現代の北米日系人と天理教 ②

おやさと研究所講師  
尾上 貴行 Takayuki Onoue

前号では、現代のアメリカとカナダにおける日本人と日系人、そのコミュニティ形成の多様化についてみてきた。今回は、そのような状況下での日系宗教と天理教の様相と今後のあり方について概観し、本連載のまとめとしたい。

### 日系コミュニティと日系宗教

日系宗教の諸教団は、主に就労を目的としてアメリカやカナダに渡った日本人たちを後追する形で、彼らが在住する地域で布教活動を開始した。やがて定住化が進む中、各教団は日本人やその子弟が集うコミュニティセンターとしての役割を担い、宗教活動のみならず、社会的・文化的側面でも大きな役割を果たした。日米開戦と同時にほとんどの日系教団の布教活動は中止を余儀なくされたが、終戦後、日系コミュニティの再建と同時に、各教団も徐々に復興していった。戦後にカナダのトロントで仏教会が設立される過程において、「仏教会を通じて日系人は『日本らしさ』を外へ向けて示すことができた」と同時に、カナダ社会の一部であると感じることができた」（飯野、238～239頁）ように、宗教教団が日系人の再定住を支えたという側面もあった。

しかし、北米社会が大きく変動する中で、日系宗教教団のあり方も変化を求められるようになった。北米各地に分散する日系人や日本人の職業やその生活形態は多様となり、国境を越えたトランスナショナルな存在が増える中で、宗教の教えの伝達や実践の仕方も多様化し、従来とは異なる布教方法やネットワークの構築が実践されている（井上、20～21頁）。非日系人へ積極的な布教を行う教団もあり、たとえば禅などは、日系宗教という枠組みを超え、「普遍的な」宗教としての地位を確立しているようにみえる。また地域社会に広く溶け込んで、社会活動や文化活動を展開している教団もある。

### 日系コミュニティと天理教

天理教は、他の日系宗教と同様に、主に日本人移民を対象として布教活動を展開した。戦中の強制収容、戦後の復興を経て、西海岸地域のみならず各地に教会や布教所を設置し、地域社会への貢献を目指した社会的・文化的活動も展開している。現在も、その活動は在住する日系人や日本人と密接な関係を有している。また教えの根幹に聖地「おぢば」への帰参があるため、日本の教会本部との繋がりも強固であり、戦前から今日にいたるまで天理教は日本との関係においてトランスナショナルな存在であり続けている。

天理教の布教活動が組織的に開始された1920年代から約1世紀が過ぎた。サンフランシスコ・ベイエリアの天理教信者に関するある調査によれば、2010年ごろのアメリカ本土には「2,000人余りいる信者の内、約70%以上を日系人が占めている」と想定され……教会長などの要職に限定すると、日系人が占める割合は実に90%以上にもなり、その内の75%以上が日本から渡ってきた移民世代で占められる」（加藤、83～84頁）。今後、さらに多様化が進むと考えられる日系コミュニティやアメリカ社会で、天理教がどのように展開するかは、これらの教信者たちが重要な役割を担っているといえる。現地で生まれ育った教信者は、天理教の信仰者としてのアイデンティティをもちながら、アメリカ社会において、時には日系アメリカ人として、時には

アジア系アメリカ人として自らのアイデンティティを認識する場面に遭遇している。言いかえると、天理教コミュニティを身をおきながら、日系コミュニティや一般の地域社会とどのような関係性を構築していくか、天理教コミュニティがいかなる存在になるべきか、なりうるかを模索していくことになる。

また日系コミュニティ形成にも地域差があるように、天理教においても、アメリカ本土、ハワイ、カナダといった国の違い、さらに同じ国でも東部と西部など、国や地域において、天理教コミュニティの形成の様態は異なる。ハワイは、アメリカにおいて州人口に占める日系人の割合が最も高い州であり、戦前から今日にいたるまで日本との強い繋がりを保持している。天理教ハワイ伝道庁の山中修吾庁長は「ハワイでは天理教内だけではなく一般社会においても、日系あるいは非日系の男性が日本人女性と結婚しているケースが、他の国や地域に比べてとても多いように感じる。……日本とのつながりが強く、日系人が多いハワイにおいて、お道は今日まで主に『日本人と日系人の宗教』として続いてきた。日系人の宗教としてハワイの日系社会でしっかりと根付くこと、英語を母語とする日系人の方々が自信と誇りを持ってこの道の信仰を保持し伝えていくことが、これからハワイのお道が伸展する大きなカギとなるだろう。」（山中、1頁）と述べている。

本連載では、北米地域における日系移民の歴史的観点から、アメリカ本土、ハワイ、カナダの天理教の歴史と展開を概観してきた。そこでは日本人や日系人たちが、現地地域社会への適応、世代交代、日本文化の継承などのさまざまな事柄にどのように対処してきたかをみることにより、北米地域における天理教伝道の歴史と展開の理解を促進する一助となったと考える。日系コミュニティや日系人たちのあり方が多様化し、変化し続ける現代社会においては、これまで日系コミュニティ、各地に散在する日系人や日本人を中心として展開してきた天理教も、そのあり方や伝道の方向性を多様化し、柔軟に対応することが求められるだろう。

「世界たすけ」を標榜する天理教は、北米地域においても日系人のみならずすべての人々をその救済の対象としている。北米伝道の当初から、「現地化」や「アメリカ化」また「非日系人への布教」は事ある度に議論されてきたが、日系人と日本人の多様化とトランスナショナル化がより進んでいる現状において、彼らのあり方と現地社会のかかわり方から、天理教の北米伝道のあるべき姿と方向性を探ることもできるのではないだろうか。

[参考文献]

- ・飯野正子「トロント仏教会(TBC)と日系人」戸上宗賢編『交錯する国家・民族・宗教—移民の社会適応—』(不二出版、2001年)213～242頁。
- ・井上順孝責任編集『海外における日本宗教の展開—21世紀の状況を中心に—』(公益財団法人国際宗教研究所宗教情報リサーチセンター、2019年)。
- ・加藤匡人「日系アメリカ人天理教信者の研究—サンフランシスコ・ベイエリア在住日系新二世信者の事例を通して—」『アメリカスの天理教—南北アメリカにおける伝道の諸相と展望』(天理大学おやさと研究所、2011年)83～113頁。
- ・山中修吾「ハワイだから」『海外部報』No.614、2016年4月26日、1頁。